

ざわめき ローマ

或ひとつの重責を課されているということが
高いドームを見上げるひとりの人をおののかせる
嘆きと哀しみは言うに及ばず
歓喜までもが激しく高まってゆくうちに
こみ上げるテノールとなって溢れ出る

今なお厳然として、かつての大帝国の栄華の幻は
夢をかき立てるように石造の廢墟をさまよい
明るい風土の中に常に一抹の切なさを秘める
カエサルが倒れ伏したその瞬間から、人々は
夜気の中に耐え切れぬ両手を差し出すことになる

今、左から、そして右からオルガンの響きを受けて私は
うつむきながら、人の希いというものの方角と
満たされぬ心の越流と堪え抜く心の赴く地とを
見事なコントラストを成した記憶の中から
生きるという深い言葉の奥底から掬い上げる

人はどんな時でも言う「ボンジョルノ」と
それは出会いの言葉でもあり、別れの言葉でもある
ここでは言葉が溢れているが、それだけに
一歩路地に入ってひとり煙草をふかす時は殊更
背後から重くのしかかる何かを感じる

だがそれでいい、そのままでいい
歌い続けることだ、歴史を背負って...
私はきっともう一度ここを訪れよう
その時には、コロッセオよ、そしてパチカンよ
お前達は' ローマを守り通した ' と私に向かって叫んでくれ

(1984.4.18)